

植物研究雜誌 第一卷 第一號

大正五年四月五日

○本誌發刊ノ辭

本誌ハ時代之ヲ生メリ我邦ノ現時ハ吾人ヲシテ寸時モ放漫退嬰苟且儉安ヲ許サザルナリ吾人ハ國民タルノ名譽トシテ又學ニ勤ムル者ノ常道トシテ我大日本帝國ヲシテ將來世界ノ中心タラシメンガ爲メニ勇邁奮進益隆盛ノ域ニ進ムルノ策ヲ講ゼザルベカラザルコト固ヨリ論ヲ俟タズ吾人ノ斯ク論ジ且行動スルハ之ヲ以テ切實ニ國家ニ對スル我義務本分ナリト信ズレバナリ徒ニ花鳥風月ニ酔ヒ空文浮辭ヲ弄シテ閑日月ヲ送ルガ如キハ是レ我輩ノ事ニ非ザルナリ予ハ之レガ爲ニ實ニ旣往三十餘年ノ長日月間敢テ自家ノ利害ヲ顧慮セズ敢テ自家ノ毀譽褒貶ヲ度外ニ措キ惡戰ニ次グニ苦闘ヲ以テシ今日尙依然トシテ甲裝ノ一卒タリ今茲ニ新ニ一ノ武器ヲ作り之ヲ把リテ以テ更ニ事ニ戰場ノ馳驅ニ從ハントス所謂武器トハ本誌即チ是ナリ今此武器ノ出ヅル實ニ現下ノ狀勢之ヲシテ然ラシムルナリ故ニ曰ク本誌ハ時代之ヲ生メリト而シテ予ガ家久シク貧ニシテ日常給セズ豈ニ出版費ノ餘裕アラシヤ而カモ我抱負ヲ行ハントスルノ念遂ニ自ラ抑フベカラズ偶マ一人士ニ遭ヒ乃チ頼リテ少額ノ資金ヲ得以テ僅ニ之ヲ上梓シ得タリ冀クハ四方ノ諸賢幸ニ予ガ心事ヲ

專見要旨

諒セラレンコトヲ之ヲ發刊ノ辭トナス

大正五年一月

東京ニ於テ 結網學人 牧野富太郎 識ルス

○卑見要旨

此一篇ハ時局ニ鑑ミ思フ所アリテ大正三年十一月總理大臣隈伯並ニ農商務省ノ一局長ニ進言セル卑見書ナリ

牧野富太郎

○日本土產植物ノ根本調査ヲ要ス

凡一國トシテ其邦域内ニ產スル天產植物ノ調査ナキハ非常ノ闕典ニシテ又文明ノ瑕瑾トシテ國ノ體面ニモ關スルモノナリ我日本ハ維新以後茲ニ殆ンド五十年ニ垂ントスル星霜ヲ經タルモ其間未ダ一回モ手ヲ此根本調査ニ下セシコトアラズ從テ我邦一ノ調査機關ヲ有セズ故ニ豐富ナル我帝國ノ植物モ其種類並ニ分布產額等ノ狀況不明ノモノ甚ダ多シ依テ速カニ之レガ根本的調査ヲ開始シ以テ委曲之ヲ明カニシ從テ利源ヲ之レニ求ムルノ素地ヲナスベシ延テ大日本植物志ヲ編成シ之ヲシテ一目ノ下ニ瞭然タラシムベシ是レ國家ノ一事業トシテ當然遂行セザルベカラザルモノナリ

○先ヅ主トシテ有用植物調査ヲ開始スルノ急務

植物全體ノ調査ハ前述ノ如ク無論必要ナリト雖ドモ先ヅ我邦今日ノ狀態ニ鑑ミ富國ノ基ヲナスベキ殖產事業ヲ一層勃興セシムル爲メ先ヅ主トシテ之レニ利用セラルベキ有用植物ノ根本的調査ヲ開始スルヲ以テ喫緊ノ急用事トナス即チ其種類ノ如何其地理分布產額ノ如何其用途ノ如何等至要ノ事ヲ充分ニ詮議シ一目ノ下ニ之ヲ明瞭ナラシメ以テ一般國民ニ殖產事業ヲ獎勵スルノ資料トナスヲ要ス

○有用植物ノ陳列館設置ノ急務